

黒田チカ 化学者。帝国大学初の女子学生。日本初の女性理学士で、2人目の女性理学博士。

くるだちか

秩父事件・1884 = 佐賀県松原町で、旧佐賀藩士黒田平八の三女に生まれる。母はトク。

非常に進歩的な考えを持った父のもと、男子同様の十分な勉学の機会を与えられて育ち、

帝国憲法発布1889 = 5歳 :

郡司千島探検1893 = **9歳** :

日清戦争始・1894 = 10歳 :

勸興小学校から、

佐賀師範学校女子部へ進み、

田中正造直訴1901 = 17歳 : 卒業。規則に従い、佐賀郡川副高等学校で1年間教師を務めたのち、

教科書疑獄・1902 = **18歳** : 上京し、**文科系は独学で可能と、女性として最高学府となる東京女子高等師範学校理科に進学。**

平田敏雄教授の指導を受けるうち、立体化学の分野に強く惹かれるようになって、

日露戦争終・1905 = 21歳 :

満鉄発足・1906 = 22歳 : **卒業。進路が限られていたため、福井県立女子師範学校の理科教師を勤めるうち、**

韓国反日暴動1907 = 23歳 : **女性研究者育成試みる母校に呼び戻されて、第二回官費研究科生となる。**

与えられる英文の専門書を独学で読解して行き、

伊藤博文暗殺1909 = 25歳 : **昭憲皇后が女高師を訪問した際、御前実験の栄誉ののち、修了し、助教授となる。**

大逆事件判決1911 = **27歳** :

明治天皇没・1912 = 28歳 : **女高師講師に招聘された長井長義の実験助手を務めて、感銘を受け、**

大正政変・1913 = 29歳 : ***この年、東北帝国大学沢柳政太郎総長が女子受け入れを表明、長井に勧められて受験すると、丹下ムメとともに、難関突破し、日本初の女性帝大生として、理学部理化学科に入学。**

真島利行の指導を受け、有機化学の研究に没頭、天然色素の研究をめざすようになり、

民本主義・1916 = 32歳 :

紫根から結晶抽出の実績挙げて、卒業、日本初の女性理学士となる。そのまま、副手として研究を続け、

本格政党内閣1918 = 34歳 :

***結晶の構造を究明するに至り、東京女子高等師範学校に日本初の女性教授として招かれ、日本化学会で講演して国民的話題になる。**

大暴落・1920 = **36歳** :

原敬首相暗殺1921 = 37歳 : **文部省留学生となり、オックスフォード大学で有機化学を研究、**

関東大震災・1923 = 39歳 :

帰国。震災で、女高師の建物が瓦解していたため、理化学研究所にも研究室が用意される。

それまでの紫根・紅花など日本産植物の色素についての研究論文で、

世界恐慌・1929 = **45歳** : ***日本で2番目の女性理学博士となった。**

満州事変・1931 = 47歳 :

その後も理化学研究所員として、青花・黑豆・茄子・シソ・玉葱などの色素分析の研究に成果をあげ、婦人科学会会長もつとめ、

二二六事件・1936 = 52歳 :

「紅花の色素カーサミンの構造研究」で、第一回日本化学会真島賞を受賞。

日中戦争始・1937 = 53歳 :

健保+総動員 1938 = **54歳** :

戦時下、研究費削減や物資欠乏が進むなか、たまねぎの皮に含まれる成分の研究を進め、

日米開戦・1941 = 57歳 :

敗戦・1945 = 61歳 :

新憲法施行・1947 = **63歳** :

三大事件・1949 = 65歳 : お茶の水女子大学新設で教授に就任し、

独立回復・1951 = 67歳 :

メデー事件・1952 = 68歳 : 退官。名誉教授。

TV放送始・1953 = 69歳 :

たまねぎの皮に含まれるケルセチンが高血圧治療に有効との成果を得、錠剤づくりにまで取り組み、

55年体制始・1955 = 71歳 :

***高血圧治療薬ケルセチンCとして発売される。**

国連加盟・1956 = **72歳** :

美智子妃・1959 = 75歳 : 紫綬褒章。

安保闘争・1960 = 76歳 :

大学紛争始・1965 = **81歳** : 勲三等宝冠章。

霞ヶ関ビル・1968 = 84歳 : **没した。**

「目でみる日本人物百科」、「わたしの20世紀・100人」、インターネット、